

橋梁技術発表会及び講演会

— 100年橋梁を目指した技術 —

13:00~13:10

開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会
会長 藤井 久司

13:10~13:40

橋建協報告

いい橋つくろう

橋梁技術発表会実行委員会 河西 龍彦

平成25年

日時

10

11 (金)

13:00~17:45

参加費無料

定員 **650** 名
申込先着順

第1部:技術発表会

13:40~14:20

1. 若戸大橋ケーブル関係の
健全度調査および補修工事

—建設後50年経過した長大吊橋のケーブル関係の保全—
技術委員会 設計小委員会 杉山 直也

14:20~15:00

2. 100年橋梁を目指して

—鋼コンクリート合成床版を用いた少数桁橋の維持管理—
技術委員会 床版小委員会 上條 崇

15:00~15:10

休憩

15:10~15:50

3. 我が国の鋼床版疲労対策技術と
最近のプロジェクト

技術委員会 鋼床版小委員会 工藤 祐琢

第2部:伊藤學賞表彰式

15:50~16:05

1. 表彰式

16:05~16:30

2. 受賞者挨拶(伊藤學賞受賞者)

16:30~16:40

休憩

第3部:特別講演会

16:40~17:40

1. 東北復興とこれからの橋梁建設

慶應義塾大学 特任教授 博士(環境)
日本学術会議連携会員
建設トッランナー倶楽部代表幹事
米田 雅子



17:40~17:45

閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会 委員長 上原 正

会場

銀座ブロッサム(中央会館)ホール

〒104-0061 東京都中央区銀座2-15-6
Tel. 03-3542-8585

申込方法

- ① Fax. 03-3507-5235 (裏面の用紙に記載)
- ② ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受付」まで(受付は9月初旬から)

申込期限

平成25年9月27日(金)

懇親会

銀座ブロッサム7階「マーガレット」にて18時00分から開催します。
参加ご希望の方は、発表会当日受付にてお申し込みください。

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会
〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11
西新橋光和ビル9階 Tel. 03-3507-5225

継続教育

CPDS認定予定

※大阪地区は 10月18日(金) ドーンセンター
北海道地区は 11月 1日(金) ホテルモンテレーデルhof札幌
東北地区は 11月 8日(金) 仙台国際センター
九州地区は 11月22日(金) レソラNTT夢天神ホール
中部地区は 12月 6日(金) 東建ホール

開催です。

申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

発表原稿のPPTはホームページに掲載しますので、ご希望のかたは
ダウンロードお願いします。

アクセス



●東京メトロ有楽町線「新富町駅」1番出口 徒歩1分

●東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線「東銀座駅」3・5番出口 徒歩8分

1 若戸大橋ケーブル関係の健全度調査および補修工事

ー建設後50年経過した長大吊橋のケーブル関係の保全ー

若戸大橋は、我が国最初の長大吊橋として1962年に完成し、北九州工業地帯の基幹インフラとして、また若松区と戸畑区を結ぶ市民の生活道路としても大きな役割を果たしてきた。この若戸大橋において、ケーブル関係の健全度把握のための調査および補修工事を今回行った。

主な内容は、①主ケーブルの深部現状調査、②ハンガーロープの一部取替え、③ケーブルバンドボルトの全数取替えである。特に主ケーブルについては、ケーブルバンド部において素線の破断が見られ、その原因を明らかにするため詳細調査を実施した。

2 100年橋梁を目指して

ー鋼コンクリート合成床版を用いた少数桁橋の維持管理ー

鋼コンクリート合成床版を用いた少数桁橋は、合理的で経済的な鋼橋の代表的な構造形式として広く普及しつつあります。道路構造物などの社会資本ストックの増大とともに増え続ける維持管理費用を抑制しながら、安全に道路を利用するためには、鋼橋の初期建設費を縮減するとともに経済的に維持管理および必要な更新を行うことが不可欠となっています。日本橋梁建設協会では、100年以上にわたって供用される鋼橋を100年橋梁とよんでいます。本報告は、新しい構造形式である鋼コンクリート合成床版を用いた少数桁橋で、100年橋梁を実現していくために必要な維持管理手法を具体的に紹介します。

3 我が国の鋼床版疲労対策技術と最近のプロジェクト

鋼床版には、軽量で架設工期が短い等の多くのメリットがあり、今後、都市内高架橋の床版取替え工事に普及することが考えられます。疲労対策も各方面で研究が進められ、日々、改善・向上しています。そこで、我が国の鋼床版に関する新しい疲労対策技術と鋼床版小委員会で行っている取り組み、さらに、最近の鋼床版プロジェクトの概要について報告します。

特別講演会 講演者紹介

1 東北復興とこれからの橋梁建設

ー略歴ー

山口県柳井市生まれ、柳井高校卒業、
1978年 お茶の水女子大学数学科卒業
1978年 新日本製鐵株式会社入社
1995年 東京大学建築学専攻研究生・研究員
2006年 東京工業大学 特任教授
2007年 慶應義塾大学 特任教授

ー主な著書ー

『大震災からの復旧
ー知られざる地域建設業の闘い』
『復興のすすめー地域建設業の挑戦』
『日本は森林国家です』
『日本には建設業が必要です』
『田中角栄と国土建設』
『建設業 再生へのシナリオ』

ー主な公職歴ー

内閣府 規制改革会議委員、
PFI推進委員会委員、
構造改革特区評価調査委員、
農商工連携88選審査委員長等

米田 雅子

慶應義塾大学 特任教授、博士(環境)
日本学術会議連携会員
建設トップランナー倶楽部代表幹事

講演概要

大震災の発災時に、復旧にむけて立ち上がった地域建設業の闘いを紹介する。釜石・大槌・遠野の復興住宅への支援をとおして、復旧が進まない現地の課題を解説する。今後、首都圏直下型、南海トラフ地震が懸念されるなか、今後の防災・減災政策の方向について解説する。さらに橋梁建設への今後の方向として、膨大なインフラ維持のための新たな包括的な発注方法、南海トラフへの命の道としての高架道路、既存の民道と公道を結ぶ異種の道ネットに必要な橋梁の開発について提案したい。

FAX番号:03-3507-5235

平成25年度

10月11日(金)

橋梁技術発表会

[東京地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無